

解剖学実習 1 a

【単位数:0.5単位, 授業18コマ】

1 科目責任者

内藤宗和 教授(解剖学講座)

科目担当者

大塚 俊 講師(解剖学講座)

2 教育目標

(1) **ねらい**(I - 1 - c, I - 2 - c, I - 3 - c, I - 4 - c, I - 5 - c, I - 6 - c, I - 7 - c, I - 8 - c, I - 9 - c, I - 10 - c, I - 11 - c, I - 13 - c, I - 14 - c, I - 15 - c, II - 1 - c, II - 2 - c, II - 3 - c, II - 4 - c, II - 5 - c, II - 6 - c, III - 1 - c, III - 2 - c, III - 3 - c, III - 4 - c, III - 5 - c, III - 6 - c, III - 7 - c, III - 8 - c, III - 10 - c, IV - 2 - c, IV - 4 - c, IV - 9 - c, V - 1 - c, V - 4 - c)

- ① コンピテンスである「医学知識と科学的探求」のため、生体の正常な構造や機能を理解し、疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学知識を学ぶ。また、実習を通して「コミュニケーション」と「プロフェッショナリズム」を習得する。
- ② 次世代の医学のため無報酬で自らの身体を提供する献体の精神に学び、医の倫理を身につける。人体の構造の美しさ、精巧さ、多様性を学び、医療人としての観察眼を養う。

(2) 学修目標

- ① 人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に述べることができる。
- ② 骨格、臓器の機能的及び臨床的意義、細胞・組織の特徴を説明できる。
- ③ 骨学、組織学、神経解剖学、肉眼解剖学、臨床解剖学の知識を統合し、説明できる。
- ④ 画像解剖学と対応させ、人体の三次元構造を説明できる。
- ⑤ 実習において、班員同士で協力して作業ができる。
- ⑥ 実習において、解剖学の知識を正しく使うことができる。
- ⑦ 身体診察と基本的臨床手技を実践するための基礎知識を説明できる。
- ⑧ 解剖学の学習、とくに実習を通して、医療安全の重要性を説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
課題	○	70%	AIDLE-Kを利用して、実習の予習・復習課題を行う。
口頭試問	○	20%	骨標本及び組織画像を用いて、口頭試問を行う。 【再評価について】 やむを得ない理由で欠席した場合、再評価の機会がある。
レポート	○	10%	実習内容に沿ったレポートを課す。
態度	○	—	態度不良の場合は40%を限度に減点をする。

出席:実習を修得するためには、欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は、追加で課題・口頭試問・レポートを課す。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

課題は、AIDLE-Kで行い、模範解答を掲載する。口頭試問とレポートは、講義内で解説する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
プロメテウス解剖学 エッセンシャルテキスト	Anne M Gilroy (著), 中野 隆 (監訳)	医学書院	医学生に必要な解剖学のエッセンスがコンパクトにまとめた内容であるため。
骨学のすゝめ	中野 隆	南江堂	愛知医科大学の学生が作成したテキストがもととなり、学生が目線を盛り込んだわかりやすい内容であるため。
バーチャルスライド 組織学	駒崎伸二	羊土社	実績ある組織学の教科書の一つであるため。
ヒューマン・アナトミー・アトラス		Visible Body	インタラクティブな3D解剖リソースであるため。
レジュメ配布(Subtext)			講義において効率的に能動的な学習を促進するため、学習ポイントが理解できる書き込み式のレジュメを配布する。

*解剖学1a, 解剖学実習1a, 解剖学1b, 解剖学実習1b, 解剖学実習2で骨学, 組織学(ミクロ), 肉眼解剖学(マクロ)を体系的に学ぶため, すべての科目で共通して教科書3冊と3Dアプリを使用する。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
解剖学講義	伊藤 隆	南山堂	実績ある解剖学の教科書の一つであるため。
ムーア臨床解剖学	坂井建雄 (監訳)	メディカル・サイエンス・インターナショナル	臨床のための解剖学を学ぶために有用であるため。
プロメテウス解剖学コアアトラス	坂井建雄 (監訳)	医学書院	美しいイラストが解剖学を学ぶために有用であるため。

6 準備学習(予習・復習)

- 教科書を用いてどの事項が取り上げられているのか確認しておく(1日あたり約15分)。
- AIDLE-Kを用いて実習内容の予習・復習を行う(1日あたり約45分)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

- 2学年次の解剖実習早期体験として、解剖実習見学を実施する。
- 真骨を用いた骨学実習を実施する。
- バーチャルスライド(eSlide)を用いた組織学実習(総論)を実施する。
- 実習は複数の班に分けて実施し、班員とのグループ学習や、講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

(2) 講義の内容

- 人体構造の系統を把握し、骨格、臓器の機能的及び臨床的意義、細胞・組織の特徴を説明できるように解説する。
- 疾病の病因・病態・治療につながる基礎知識及び身体診察と基本的臨床手技を実践するための基礎知識を習得することができるように、学習を促進する。